

第 18 回日本ボランティア学習学会第 3 分科会

第 3 分科会は、岐阜経済大学の学生である、白井貴大が進行役を行いました。ファシリテーターとして、「岐阜大学『ボラネット』」さん、「朝日大学『めぐる』」さん、「中部学院大学短期大学部」の 3 名の学生さんを交えて、「学生が動くと地域が変わる」というテーマについて考えました。

まず、朝日大学の『めぐる』さんから、交通安全指導に関する活動を演劇も交えて行っていただき、次に『中部学院大学短期大学部』さんの福祉活動を動画も交えて紹介を。3 番目に岐阜大学さんの『ボラネット』の方によるボランティアコーディネート活動の紹介をしていただき、最後に岐阜経済大学『ボランティア・ラーニングセンター』のコーディネート活動に関する報告を行っていただきました。

分科会としては、岐阜経済大学の電子黒板を活用し、大学生と社会人が混じって「学生が動くと地域が変わる」とはどういったことなのかについて検討しました。

30 名程度の参加で、5 名程度ずつのテーブルに分かれ、ファシリテーターを中心として電子黒板にまとめていきました。



セッション 1 では、「学生はどのように動けるのか」について考えていただきました。討論の結果、「時間がある」や「自由」、「いろいろな体験ができる」などのメリッ特的意見が出ました。一方で、「時間がない」や「活動に限界がある」といったデメリットな意見も出てきました

セッション 2 では「街が変わるとはどういうことなのか」について検討していただき、「活性化する」や「人がもっと集まる」、「商店街がもっと活気にあふれる」という意見が出てきました。

セッション 3 では、上記 2 つを踏まえて、「学生はどのように「まち」を変えられるのか」についてまとめていただきました。「ボランティア活動で街を変える」といった意見や「も

っと街について知る」、「街に学生が企画を持ち込む」など、学生目線で学生が実現できそうな内容での意見が交わされました。



最後は、「街を愛すること」、「街を知ることから街が変わる」と白井がまとめ、無事に分科会が終了しました。

この分科会を通し、それぞれの街に対する価値観とボランティアに対する価値観の違いを学んでもらい、生かせるような企画を考えて終了したため、今後のボランティア活動に生かされるのではないかと感じました。

(白井 貴大)